

梶浦昭友博士記念号の発行に際して

梶浦昭友教授におかれては、関西学院大学商学部において40年もの長きにわたり研究、教育、後進の育成ならびに商学部長をはじめ大学での行政に多大な貢献をしてこられました。また、この間、学会活動、社会貢献等の各分野におきましても、多彩かつ貴重な活動を展開してこられました。

梶浦教授は愛知県東海高等学校をご卒業後、1971年4月に関西学院大学商学部にご入学され、1975年3月に同学部をご卒業後、同大学院商学研究科修士課程、同博士課程へと進学されました。1981年4月に関西学院大学商学部専任講師に就任され、1985年4月に同助教授、そして1991年4月に同教授に昇任され、1994年4月には同博士課程前期課程指導教授、1997年4月には同後期課程指導教授とされました。行政面では、この間、商学部長、商学研究科委員長、産業研究所長、大学評議員、等、数々の要職を歴任してこられました。

先生のご専門は会計学であり、ご研究は、キャッシュ・フローに着目された支払能力の分析から始まり、フランスの会計・ディスクロージャー制度、プラン・コンタブルのご研究、そして、ビランソシアルのご研究に至っておられます。先生は、余剰計算書、生産性余剰、交換余剰といった「新たな考え方」を日本に初めてご紹介され、これらを纏められたご著書『企業社会分析会計』（中央経済社、

1991年、増補第2版、1996年)により、1997年3月に関西学院大学から博士(商学)の学位を授与されておられます。その後は、アカウンタビリティ、なかでも特にグリーン・アカウンタビリティを中心に、環境重視の視点から成果、生産性、付加価値といった伝統的な諸概念にも「新しい光」を当てられ、ご研究は、付加価値・生産性、企業情報開示、財務諸表分析を中心に、企業が開示する実際の情報の変遷や多様性ならびにその利用可能性にまで極めて多岐にわたっておられます。2016年には、ご編著書『生産性向上の理論と実践』(中央経済社)を上梓されるなど、会計学というご専門の領域を十二分に活かされ、学術論文のみならず、時事解説、啓蒙記事、テキスト等も含めた多様な著述は、これまで140本に及んでおられます。

学会活動では、日本会計研究学会の理事・評議員、日本社会関連会計学会の会長・副会長・理事、大阪簿記会計学協会の理事長・副理事長・理事、日本経営分析学会(日本ディスクロージャー研究会)の副会長・理事、国際会計研究学会の理事、を歴任してこられました。また、社会貢献の分野では、日本商工会議所、大阪商工会議所の各種委員の他、2016年度には、厚生労働省「生産性向上と雇用管理改善両立支援(表彰)事業」、2017年度から2年度間は、同省「働きやすく生産性の高い企業・職場表彰事業」の企画審査委員会委員を務められました。

商学部・大学院商学研究科では、財務諸表の構造と分析を中心にゼミを担当され、多くの卒業生を社会に送り出してこられました。

先生は、研究、教育ならびに社会貢献に対する強い熱意を常に持たれ、多くの研究者や関係機関と積極的に交流され、学識の普及に真摯に努めてこられました。こうした先生の公平かつ温厚なお人柄から、学生達の人望は厚く、広く学生達から慕われておられます。

梶浦教授のご退職に際し、商学部ならびに商学研究科の教育、研究、行政に対する多大なご貢献に改めて衷心より感謝の意を表し、ここに『商学論究』梶浦昭友博士記念号を刊行できることは、関西学院大学商学部につながる我々の大きな慶びであり、この機に改めて、先生の今後ますますのご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

なお、この記念号の刊行に際してご執筆いただきました先生方、また編集に携わっていただいた商学論究編集委員会の先生方に厚く御礼申し上げる次第です。

2021年3月

商学部長 岡田太志